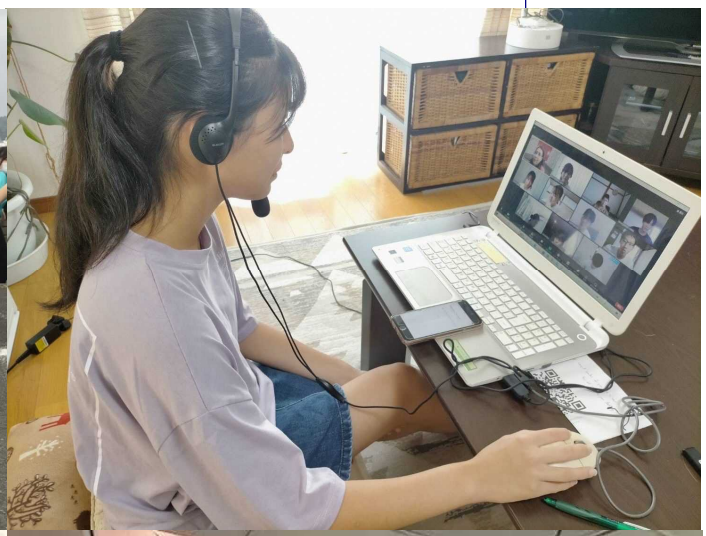
令和４年度

ふじのくにグローバル人材育成事業

成果報告書



ふじのくにグローバル人材育成基金で
高校生や教職員の「海外での学び」を応援しています

静岡県教育委員会

目次

ふじのくに グローバル人材育成事業概要		2
参加者等一覧		3
研修報告	短期留学	4
	ジョージタウン大学 オンライン英会話プログラム	20
	グローバルハイスクール	24
	海外インターンシップ	36
支援企業・団体一覧		40

ふじのくにグローバル人材育成事業概要

国際化が進む現在において、本県が地域間競争に勝ち抜き、持続的に発展していくためには、社会に変革を起こしていくグローバルリーダーとして未来を創る人材の育成が必要です。

静岡県教育委員会では、2016年４月に「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設し、国際的に活躍しようとする意欲ある高校生やグローバル教育を推進する学校を支援しています。

国際感覚豊かな人材の育成

海外体験促進・長期留学

海外の教育機関等で語学など専門分野の体験にチャレンジする高校生の留学の経費を支援します

海外体験促進・短期留学

語学研修、ボランティア活動、スタディーツアーなど、自らの課題に取り組む高校生の留学の経費を支援します

教職員の海外研修

海外の教育機関等において、指導力や専門性を向上させるための研究に取り組む教職員を支援します

グローバルハイスクール

特色のある先進的なグローバル教育を展開する指定校を支援します

ものづくり県の次代を担う人材の育成

海外インターンシップ

県内企業の海外事業所等における就労体験を支援します

ものづくり等世界大会

ものづくり等の世界大会に参加する高校生を支援します

参加者等一覧

1　海外体験促進

（1）　長期留学・短期留学

令和４年 11 月に募集を再開し、長期留学（１年程度）に２名、短期留学（１週間～３か月程度）に８名を派遣しました。短期留学派遣高校生の感想をまとめました。

学校名	氏名（敬称略）	滞在国	期間	掲載ページ
静岡県立吉原高等学校	岩塚　杏	オーストラリア	３月９日～３月 17 日	4
静岡県立吉原高等学校	西澤　芽生	オーストラリア	３月９日～３月 17 日	6
静岡県立静岡高等学校	伊藤　鳴海	カナダ	２月 26 日～３月 27 日	8
静岡県立静岡高等学校	神村　紅菜	フィリピン	３月 18 日～３月 24 日	10
静岡県立静岡城北高等学校	秋山　未來	大韓民国	３月２日～３月 31 日	12
静岡県立静岡城北高等学校	塩澤　結鈴	アメリカ合衆国	３月 21 日～４月４日	14
静岡県立藤枝東高等学校	吉永　圭佑	オーストラリア	３月 18 日～３月 27 日	16
聖隷クリストファー高等学校	藤﨑　理斗	アメリカ合衆国	１月３日～３月 24 日	18

（2）　大学連携企画留学（オンライン英会話プログラム）

新型コロナウイルス感染症により大学連携企画留学が中止となる中、令和４年度の代替プログラムとして、アメリカ合衆国のジョージタウン大学との連携により、オンライン英会話プログラムを実施しました。

学校名	氏名（敬称略）	期間	掲載ページ
静岡県立榛原高等学校	広畑　乃羽	令和４年８月９日～令和４年８月 20 日	22

2　グローバルハイスクール

学校の特色を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研究機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定しています。

学校名	期間	掲載ページ
静岡県立下田高等学校	令和４年度～	24
静岡県立静岡城北高等学校	令和３年度～	26
日本大学三島高等学校	令和４年度～	28
静岡県立浜松湖東高等学校	令和３年度～	30
静岡県立相良高等学校	令和４年度～	32
静岡聖光学院中学校・高等学校	令和３年度～	34

3　海外インターンシップ

県内企業の海外工場での就業体験等を実施することで県内企業の実力を肌で感じ、将来的に県内企業で活躍する意識を高めました。令和４年度は県内企業等の海外拠点をオンラインでつなぎ開催しました。

企業名	国名	日時	掲載ページ
ＪＴＢ株式会社	オーストラリア／台湾	３月 22 日（水）12:55～16:00	36
ヤマハ発動機株式会社	インドネシア	３月 23 日（木）９:30～16:00	37
静岡銀行	香港	３月 23 日（木）13:00～16:00	38

参加したプログラム	海外異文化体験		訪問国		オーストラリア	
校内発表会の有無（○）	(有)・無	(有の場合)	日にち	6月2日	（対象）	(全校)・学年
学校名	静岡県立吉原高等学校	氏名	岩塚　杏		学年	2

1　目的・応募理由

私はずっと日本で暮らしてきましたが、国際科に入学して、外国のことや多文化のこと、平和や環境のことなど様々な視点を学んできました。また、普段の英語の授業ではコミュニケーション活動などもしていましたが、それは学校の授業の中の話です。実際にどれだけ自分がコミュニケーションをとれるか、多文化共生社会が成り立っている国の雰囲気はどのようなものなのかを経験してみたかったです。日本で見聞きしていることを経験することで自信にもなったり落ち込むこともあったりすると思いますが、そういう経験もしてみたいと思い応募しました。

2　研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

出国する前に、JICA 横浜で事前研修を受けました。国際問題が日本とどのように繋がっているのか、私たちの生活と世界の関係、また、発展途上国と先進国の関係など国際関係についての基礎的な知識を学びました。多文化共生社会のオーストラリアでの生活をイメージしながら興味深く学びました。

オーストラリア到着後、まず現地のスーパーマーケットに行き、飲み物や必要なものを買いましたが、初めての海外での買い物はとても緊張しました。レジのやり方も日本とは違うし、定員さんは気さくに話しかけてくれますが、なんとなく雰囲気で答えるくらいでした。その後カランビン動物園に行き、オーストラリアの動物や自然を見ました。昼食にはフィッシュアンドチップスというオーストラリアでは有名な食事をとりましたが、私は量が多すぎて食べきれませんでした。それからホストファミリーと会って週末はホストファミリーと過ごしました。ホストファミリーは、もう１人クラスメイトと一緒だったのですが、２人とも楽しく過ごさせてくれました。ブリスベン・クリスチャンカレッジという学校に通いましたが、バディーと一緒に授業を受けたり、日本文化の紹介を子ども達に教えたり、現地の人たちと交流する機会が多くあり楽しく研修を受けられました。特に日本文化は日本語で名前を付けて毛筆で書いてあげたのですが、その日本語の意味を伝えるのが難しくて、皆で助け合いながら教えました。そういう経験も楽しかったです。

3　感想等

初めて海外に行きました。行く前は学校で習ったことやインターネットなどのメディアからの情報しか海外のイメージはありませんでした。それが現実のものとなったので、毎日が驚きと発見でした。このオーストラリア研修が終わって感じたことは、物事の捉え方や考え方の多様性を受け入れることがいかに大切かということです。日本だけで暮らしているとどうしても偏った考え方が身につくものだと思っていました。そしてやはりオーストラリアに行くと日本とは違うことが多くて、しかもそれらはオーストラリアでは正解なことだと思いました。日本ではダメなことでもオーストラリアでは普通でした。例えば、赤信号の時に日本人は青になるまで待っていると思いますが、オーストラリアでは車が来てなければ多くの人が渡っていました。きちんと青まで待っている私がおかしいのかな、と思ったほどです。授業では、先生が一方的に説明するのではなく、生徒たちが話し合いながら進めたり、教室を出て好きな場所で話し合ったりしていました。また、私の学校では先生が話している時に意見を言ったりしないものですが、オーストラリアの生徒たちは平然と意見を言っていました。自分たちで考えて主張していて、私たちの授業中の姿勢とは違っていました。この差は大きいと思いました。

研修を振り返って、改めて日本に対する愛国心が上がった気がしています。それはオーストラリアでは自主性が日本よりも尊重されている文化だと思いました。それは躾けられたものではなく、そういう文化なのです。日本は規律や団体、協調性や和が躾けられています。自主性は確かに尊重して欲しいし、楽な面が多いですが、規律や協調性といった小さいころからの教育は私たちを守ってくれていると感じました。それは、個性がなくなるということではなく、周囲に気を使えて判断できるということで、世界でも通用する感覚だと思ったからです。これは日本を出てみないと感じない感覚でした。外の違いに気付いて私のことも客観的に見られるようになった気がします。

参加したプログラム	海外異文化体験		訪問国		オーストラリア	
校内発表会の有無（○）	(有)・無	(有の場合)	日にち	６月２日	（対象）	(全校)・学年
学校名	静岡県立吉原高等学校	氏名	西澤　芽生		学年	２

１　目的・応募理由

以前からオーストラリアの文化に興味を持っており、機会があれば是非参加したいと思っておりました。また、海外の文化や考え方を身に付けることは自分の考え方にも影響を与えるものだと思います。さらに、日本語が一切使えない場所に身を置くことは、英語のコミュニケーション能力だけではなく、精神的にもプラスに働くと考え応募しました。

２　研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

１日目は、クラス全員での研修でした。カランビン動物園でコアラを抱いたり、サーファーズ・パラダイスで日本とは違った海の景色を楽しみました。２日目、３日目はホストファミリーと一緒にショッピングをしたり、観光に行きました。目に見えるものすべてが日本の何倍も大きくてずっと驚いていました。４日目は、ブリスベン・クリスチャンカレッジという学校でバディーと一緒に授業を受けました。授業は日本の大学のように自分の好きな科目を受ける形式でした。時間割は２時間ごとに休み時間がありました。５日目はクラス全員で市内研修でした。クイーンズランド大学のキャンパスツアーの後、クイーンズストリートモールを訪れ、ショッピングを楽しみました。６日目はバディーと一緒に午前中だけ授業を受けて、昼食時に浴衣を着て修了式を行ってもらいました。現地の授業は英語が全然わからなくて、日頃日本で受けている英語は私たちに向けて分かりやすく話されているのだとつくづく思いました。使用されている表現も学校の教科書に出てくるような表現ばかりではなくて、実際に話される英語と日本で教わる英語では大きく違って、もっと現地でも通用する英語を学びたいと思いました。

３　感想等

私は今回のオーストラリア研修で様々な日本との違いを発見することが出来ました。１つ目は水についてです。私が住む富士市では富士山から水が出るため、さほど水は重要視されてい

ません。しかし、オーストラリアは比較的乾燥した国であるため、水は大切に使われていました。例えば、お風呂や洗濯の頻度です。日本では、ほとんどの人が毎日お風呂に入ります。それに対して、オーストラリアでは、毎日湯船につかるわけではなく、短時間でシャワーを浴びるだけでした。洗濯も毎日ではなく、数日に一回でした。２つ目は、人柄についてです。オーストラリアの人は日本人と比べてフレンドリーな人が多いように感じました。例えば、スーパーなどでの会計の時、ほとんどの定員さんは”Hello. How are you?”と声をかけてくれました。初めは戸惑ってしまってうまく言葉を返せなかったのですが、３日目くらいになると慣れてきて、定員さんとの会話を楽しむことができるようなりました。また、学校の友達やホストファミリーはいつも私の拙い英語に耳を傾けてくれて、私の英語を一生懸命に理解しようとしてくれました。しかも、聞き取りやすいように簡単な英語を使ったり、ゆっくりと話してくれました。そのおかげでオーストラリアでとても有意義な時間を過ごすことができました。将来はオーストラリアに住んでみたいです。

日本と海外ではもちろん違うことが多くありました。毎日が新鮮で驚くことばかりでしたが、同時に楽しかったです。知らないことがたくさんあるかと思うともっと経験したいと思いました。また、似ていることも多くありました。一生懸命に話せば一生懸命に聞いてくれたり、”Thank you”と言えば笑顔になってくれました。日本人も同じだと思いました。異文化と言っても同じこと違うことがあり、同じ日本人同士でも理解し合えないこともある。結局は同じ人間なのだと思いました。今後、何かに悩んだときは今回の経験を思い出し、広く自分を見つめながら乗り越えていきたいと思います。

参加したプログラム	語学留学		訪問国		カナダ	
校内発表会の有無(○)	(有)・無	(有の場合)	日にち	5月12日	(対象)	(全校)・学年
学校名	静岡県立静岡高等学校	氏名	伊藤　鳴海		学年	2

1　目的・応募理由

英語学習が好きで、英語を使って生活する中で英語力を向上させたかった。また、多民族国家であるカナダで異文化に触れ、理解を深めたいと考えた。

2　研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

平日は10時半から２時まで語学学校の授業に参加した後、学校やエージェントが開催するアクティビティに参加した。授業では、与えられた話題についてディスカッションをした。外国の方は政治はもちろんのこと、社会問題、前の日に見た絵画まで、幅広いことに関心を持ち、自分の意見を確立させていて、日常生活でこれほどまでに様々なことを感じ考えているのか、と刺激を受けた。意見を求められることも多く、はじめは戸惑ったが、クラスメイトが「ただあなたの意見を聞きたいだけなんだ、非常に優れた意見や正しい意見が聞きたいわけじゃないよ」と言ってくれてからは、次第に自分から発言できるようになった。違う視点や考え方を持つ人と意見を交換するのは興味深く、面白かった。学校のアクティビティでは、美術館に行ったり、カフェで会話をしたり、言語交換をしたりした。互いの国で流行っていることや言葉、英語の学習方法についてなど、普段日本では聞けない話を多く聞くことができた。エージェントでは、現地生活でよく使う英語を学んだ。写真を撮って欲しい時に使える表現を学び、それを街で実践した時は、心がドキドキとウキウキで満たされていた。また、家ではホストマザーと５人のルームメイトと過ごした。ホストマザーは帰りが遅いため、話せる時間は朝食の時間だけだったが、充実した時間を過ごすことができた。日本に帰った今でも、チャットをするほど距離を縮めることができた。ルームメイトは、最終日にパーティーを開いてくれて、日本に帰りたくないと強く感じたのを覚えている。

休日は英語と文化の勉強のため、教会やマーケットへ行った。教会では、曲を歌った後、「聖書は恐ろしい本なのか」という講義を聞いた。私の行った教会は熱気があって、宗教を信じる人にとって、神様は原動力であり、心の拠り所なのだと思った。だから互いの宗教は尊重されるべきなのだと思った。マーケットで、話しかけてくれた店員は印象的だった。彼女は他の国からカナダに移住しており、他の国で生活するための知恵をたくさん教えてくれた。私のような見知らぬ人のことまでも思ってくれる心の広さに感動した。

カフェでアクティビティ

美術館でアクティビティ

エージェントオフィスで英語学習

実際に写真を撮って欲しいと頼んでみた

教会

マーケット

3　感想等

カナダでの生活は、新鮮で、非日常的で、充実していた。しかし、決して楽しいことばかりではなかった。他の国での生活や学習において、自分自身が抱える語学力の不足や文化の違いなど深刻な悩みと向き合わなければならなかった。しかし、その過程で、英語のコミュニケーションや表現力を鍛える機会がたくさんあり、友人やホストマザーともコミュニケーションを図ることができた。

その中で、自然な英語を話すことではなく、良い英語を話すことが大切だと学んだ。ネイティブのように流暢に、語彙を巧みに用いて話すことができれば素晴らしいが、英語が母国語でない私たちにとっては、あまりに難しすぎる。コミニュケーションの１番の目的は意思の疎通である。自分の伝えたいことを誤解のないように伝えて、また相手の意図することを正確に理解することの方が大切である。例えば、何かを軽く食べたい時、”Let’s grab a bite!”のように言うのが自然であろう。しかし、”Let’s get something to eat.”と言ってもいいだろう。最初の文よりはネイティブが使う頻度が低いかもしれないが、文法的に理にかなっており、意図の伝わる「良い英語」であると思う。このように、ネイティブスピーカーのようではなくても、相手が理解できることができるように努めるべきである。どんな言葉を話すかよりも大切なのは、積極的な態度と相手を理解しようとする姿勢だと感じた。私ははじめ、対話することを恐れていた。そんなとき、助けてくれたのは友人だった。たくさん話しかけてくれたり、理解が難しい時はたくさん聞いて理解しようとしてくれた。私は、自分に対する関心とリスペクトを感じて、自分の話したいことをどんどん話すことができた。その経験が心から嬉しくて、留学の後半では、自分から新入生に話しかけていた。日本では考えられなかった状況に、私は自分がこの国際交流を通して成長できたのだと感じた。また、カナダでの生活で、日本という国や日本にいる友人や家族よりも素晴らしいものはないと強く思った。カナダでの生活に慣れる前、日本が恋しく、寂しい思いをした。店員の顧客に対する強いリスペクト、街の清潔さと安全さ、生活の便利さ、家族の安心感は、日本には敵わない。カナダでの友人も素敵な人達ばかりだったが、やはり日本にいる自分の友人は普段から本当に自分を支えてくれていたのだと痛感した。今まで以上に、自分の恵まれた環境に対する感謝の気持ちが芽生えた。環境が変わると、それに適応するために自分も変わらなければならない。その時に、周りのひとからたくさん学んで、また自分自身のスキルや欠点を認識し、欠けている部分を補い、自己管理能力を高めることで成長できるのだと思う。私の場合、この語学留学が自身の学びと成長の機会になった。この語学留学を通して、語学能力だけでなく、人間的な成長や人とのコミュニケーション能力にも大きな影響を受けた。自分自身に対し、多く価値を与えてくれた経験であることを深く感じている。これらの経験を今後の人生に活かし、自分自身を向上させるために、今後も成長を続けていきたいと思う。

カナダでの友人たち

最終日にパーティー

参加したプログラム	cec		訪問国		フィリピン　セブ島	
校内発表会の有無(○)	(有)・無	(有の場合)	日にち	5月12日	(対象)	全校・(学年)
学校名	静岡県立静岡高等学校	氏名	神村　紅菜		学年	2

1　目的・応募理由

私は、貧困やフードロスなどの問題について関心があり、以前から自分にできることはないかと考えていました。そして世界の飢餓の問題などをインターネットや本などで調べていくうちに、そこには予想より遥かに厳しい実態があることを知りました。ちょうどその頃このボランティアプログラムを知り、日本にいるだけでは分からない現地の人々の声、メディアからでは分からないよりリアルな状況を自ら体感したいと強く思いました。将来私は、食を通じて日本と海外をつなげる仕事につきたいと思っています。私の夢は、世界の人々に食の幸せや食べることの楽しさを届けることです。この活動を通して、国内だけでなく世界という広い視点から、食の問題について考えることが夢を実現させる第一歩だと思っています。また、この活動は自分にとって大きな挑戦と捉えています。私はいつも頭で考えてばかりで行動をおこす勇気が持てないことが多いです。そんな自分に対してもどかしさを感じていました。そのため今回自分から活動に参加したいと決めたことは大きな決断でした。私はこの活動を通して貧困問題や食の問題を学ぶと共に、自分自身を変えるきっかけにしたいと思っています。

2　研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

3/18 現地時間20時ごろセブ島到着　宿舎に移動
3/19 オリエンテーション終了後、午後：墓地スラムを訪問
3/20 午前：孤児院訪問　午後：都市スラム訪問
3/21 午前：障害のある子が通う小学校の授業を見学
　　午後：教会などを観光、ストリートチルドレンと交流
3/22 フリーデイ　ボホール島観光
3/23 午前：マンゴーファクトリー訪問　　午後：ゴミ山スラム訪問
3/24 父と合流　移動
3/25 現地の日本人と交流　貧困の子供達の支援活動について
3/26 観光
3/27 帰国

3　感想等

私が研修を通して最も衝撃を受けたのが、現地の経済格差です。

私達はボランティア活動で訪れたスラム地域を何ヶ所か訪れました。中でも活動最終日に訪れたゴミ山スラムにはとても衝撃をうけました。ゴミ山から体に良くないガスが発生し、地域一帯に充満しているため、私たちはマスク着用で30分のみ滞在を許されました。しかしそのような場所で子供達を含む多くの家族が生活をしているのです。「ゴミの中から食べ物を探し、洗

って食べることもある。」そこに住む家の方が話されたことです。スラム地域に住む人々は皆痩せ細っていて、道を歩く野良犬も骨がわかるくらい痩せこけ、ぐったり倒れている犬も何匹もいました。ここより前に訪れた墓地スラムでも、食べ物を得ることの難しさを聞いていたのですが、このゴミ山スラムの生活は想像をはるかに超えるものでした。スラム地域を見学し話を聞く中で、私はフィリピンに住む人は貧しい人ばかりだという印象を受けました。しかし、別の日、街中のショッピングモールを訪れると、ブランドのお店が並び、綺麗な服でお洒落をした人々で賑わっているのです。また、スラム地域の人々が食べ物に困っている一方で、レストランでは食べきれなかった料理が残されている現状を目の当たりにしました。貧富の差があまりにも大きいことに愕然としました。

帰国後、私は日本で自分にできることはないかと考えました。活動を振り返り真っ先に思い浮かんだのは、貧しい生活をしていた子供達の笑顔でした。活動で出会った子供達に将来の夢を聞いたとき、先生や医者など、眩しい笑顔で教えてくれました。そんな子供達が食べ物に困ることなく、自分の夢を叶えることを手助けしたいと思いました。私は、将来食品会社に就職したいと考えています。その会社で、安価で栄養価も高く美味しい商品を生み出して、貧しい人々に届ける仕組みを構築したいと思います。例えば、日本で売り物にならず、廃棄されてしまう野菜や果物、作物などを使用することで生産コストを抑えることができます。自分が商品を開発し、貧しい人々の食を豊かにしたいです。

このボランティアプログラムは自分の価値観、考えを大きく変える経験ばかりで、予想をはるかに超える現状が存在していることを自分の目で確かめてくることができました。

街の市場の近くに住む子供達↓

↓ゴミ山スラムで暮らす子供達→

参加したプログラム	ダンス留学		訪問国		大韓民国	
校内発表会の有無（○）	(有)・無	(有の場合)	日にち	6月（未定）	（対象）	全校・学年
学校名	静岡県立静岡城北高等学校	氏名	秋山　未來		学年	2

1　目的・応募理由

韓国語の習得及びダンス技術の向上
グローバルな視点や行動する力の獲得

2　研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

（1）　**レッスンがある日**

レッスン前からスタジオが空いていたので、レッスン前に２時間くらい練習してから夜レッスンを受けた。

（2）　**レッスンがない日**

有名な観光地に行ったり、ショッピングをしたり、韓国の料理を食べたり、いつも受けているスタジオではない場所でレッスンを受けた。

韓国でダンスのレッスンをたくさん受けました。普段のレッスンでは、先生がたくさんのアドバイスをくれました。それらの改善点をレッスン前に個人練習したり、友達と踊ったりした時間がとても楽しかったです。留学前にずっと SNS を通して憧れていたダンサーに会うことができたり、その方のレッスンを受けたりできたことがとても良い経験になりました。特に、ダンスにかける情熱や姿勢に大きな感銘を受けました。

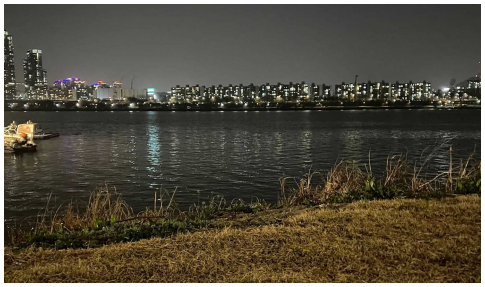
いろいろな美味しい食べ物も食べることができました。韓国の有名な料理や、カフェなど日本ではあまり食べられないようなものや、見ないようなものがたくさん食べられてよかったです。韓国は、１人で食事をする文化があまりないようでした。外食をするときは現地でできた友達と一緒に食べることができて楽しかったです。

有名な観光地に行き、現地でできた友達といろいろな思い出づくりをしました。中でも私が最も記憶に残っていることは、ロッテワールドに行ったこと、韓国人の友達と１日中遊んだこと、同じ留学に来ている日本人の方たちと一緒に夜の漢江に行ったことです。ロッテワールドは私が小学生の頃からずっと行きたかった場所です。YouTube などでしか見たことがなかったので、画面の中に入った感じがしてとても不思議で楽しかったです。

スタジオで出会った同い年の韓国人の方と仲良くなり、一緒にソウル市内に遊びに行きました。一緒にお揃いの小さいフィギュアを買ったりカフェに行ったりご飯を食べたりしながらお互いの普段の生活や学校生活についていろいろ知ることができました。韓国の学校の新学期は３月から始まること、給食があること、授業で日本語を勉強していて、ひらがなのテストがもうすぐあることなど、日本と違うところや知らなかったことをたくさん知ることができました。

また、翻訳ソフトを１回も使わないでそれまで勉強した韓国語を使って１日過ごすことができました。上手だねって褒めてもらえたことが嬉しかったです。

同じプログラムで留学に来ていた日本人の方たちと、最後の日が近づいてきている日の夜、３人で漢江に行ってみんなで色々なことを話しながら川岸でラーメンを食べました。２人は私よりも年上で、会ってから日付があまり経っていないのに、将来のことや自分の悩みをなんでも相談できるくらい打ち解けることができました。綺麗な夜景を見ながら、みんなで話していたら時間が本当にあっという間に感じました。



3　感想等

今までに経験したことのないようなことや、普段の生活の中では学べないようなことを多く学ぶことができ、とても充実した１ヶ月を過ごすことができました。韓国でのレッスンやレッスン以外にした些細なことひとつひとつがとても楽しく、幸せな時間でした。

海外に行くことも、１人で生活することも初めてだったので、最初は毎日不安で大変なこともありました。しかし、この留学を通して、多くの出会いがたくさんあり、大切な友達を作ることができました。また、会えないからこそ自分の家族や周りの友達への感謝を感じられたこと、自分が今まで持っていた価値観や考え方を変えることができたこと、そして、視野を広く持てるようになったことが私の成長です。

留学前よりも自分に自信を持つことができるようになれたと思います。今回の経験を生かして、これからの学校生活や普段の生活の中でたくさんのことに挑戦をしていきたいです。

参加したプログラム	ダンスキャンプ		訪問国		アメリカ合衆国	
校内発表会の有無（○）	(有)・ 無	(有の場合)	日にち	6月（未定）	（対象）	全校・学年
学校名	静岡県立静岡城北高等学校	氏名	塩澤　結鈴		学年	2

1　目的・応募理由

国際的視野の獲得及び本場のダンスを見て将来を考える
ダンス技術及び語学力の向上

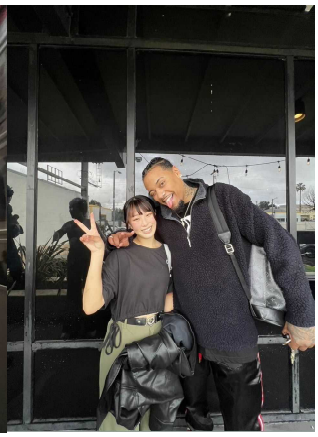
2　研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

（1）　**ダンスレッスン　１日あたり１レッスンか２レッスン（１時間 30 分）**

私が受けたスタジオは３つあります。

【Millenium dance complex】

このスタジオは他の２つに比べてレッスンが充実していました。毎日、午前中から午後までスケジュールが埋まっているので、一番通った所です。



【Tmilly TV】

初めて受けたスタジオでした。チケットを買うことができるか不安でしたが、受付の人が本当に優しくて無事買うことができました。この体験がこれからのアメリカ生活をほっとさせてくれるものでした。レッスンスケジュールは、土日が休みで夕方始まりが多かったです。

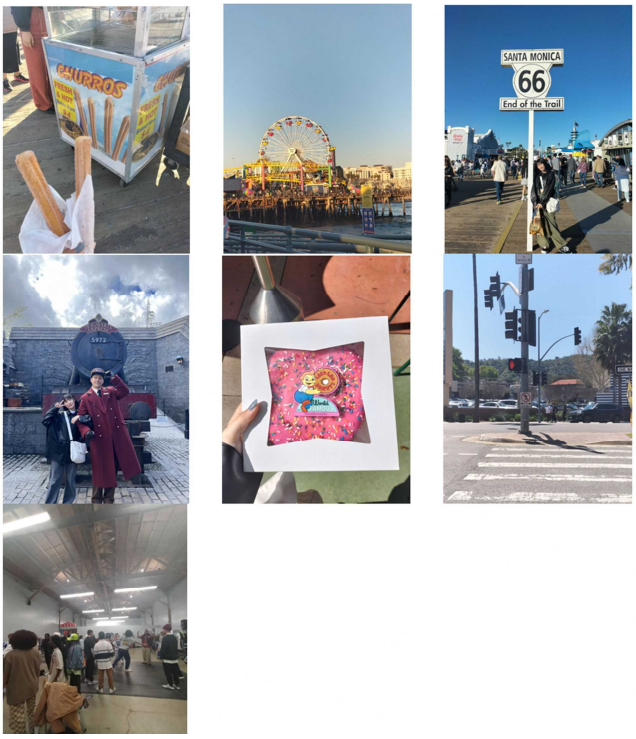
【EightyEight】

最近できたスタジオです。部屋は大小２つあります。写真のようにネオンライトの看板が特徴的です。

ここで受けたレッスンで素敵な出来事がありました。同じレッスンを受けていた方々に多くのお褒めの言葉を頂けたことです。

どのスタジオもレッスンの雰囲気が凄く良くて、グループで踊っている時に声を出して盛り上げてくれたり、先生が ″nice″ ″beautiful″とおっしゃってくれたりと常にテンションがあがる環境で踊れました。

(2)　レッスン時間外は観光(Hollywood 周辺)



(3)　寮生活　自炊や洗濯、同じ寮の人と交流

3　感想等

日本とは全く違ったダンスレッスンを受けることができてとても刺激に溢れた２週間でした。同じ振りを踊っていても、体の使い方をはじめ、何もかもが違っていて本当に学びの多い時間でした。日本では、人間関係において、「他人は他人」という価値観があり、壁のようなものがある感じがしますが、アメリカでの生活は人との交流が多く文化の違いを感じました。現地の人だけでなく日本の方たちとも繋がりが増えました。彼らから素敵な言葉をたくさんいただけてとても励みになりました。初めて親元を離れて２週間の生活をしました。大変なことが多く、改めて両親の大切さを実感しました。

個人的に印象に残っていることは、″Uber″という配送サービスを利用したことです。アプリで予約をすると現在地まで迎えに来てくれて、目的地まで連れていってくれます。多くの運転手さんが話しかけてくれるので英語を使って話すことの実践の場になりました。

また、寮生活を通していかに自分が両親に頼ってばかりだったのかを実感しました。寮の方々は日本人なので安心ですが成人している方々と一緒に生活をしたため、最初は気を遣いました。しかし、日を重ねるごとに親しくなり、おすすめの観光地を教えてくれたり、一緒に観光したり、雑談したりと楽しい生活を送ることができました。帰国の日、朝早いのにも関わらずお見送りしていただき別れが凄く惜しかったです。

日本とアメリカのダンスレッスンの違いは、レッスンの最初に行うストレッチや基礎がないことです。代わりに、レッスンのレベル(Beg/Int/Adv)を選択できるので、そこで基礎を習うことができました。日本のスタジオでは、いつも同じ先生に指導をしていただきますが、アメリカでは先生、ジャンル、レベルを選ぶことができるので色んなジャンルに挑戦しやすかったです。

この留学を通して、ダンスの技術の向上だけではなく、自分自身の価値観を広げることができました。この経験をこれからの学校生活にしっかりと生かしていきたいと考えています。

参加したプログラム	短期留学		訪問国		オーストラリア	
校内発表会の有無(○)	有　・　(無)	(有の場合)	日にち	―	(対象)	全校・学年
学校名	静岡県立藤枝東高等学校	氏名	吉永　圭佑		学年	1

1　目的・応募理由

海外の学校に通い、文化の違いや、ネイティブが使う英語を体感すること。
サッカーの練習に参加し、海外ではどのような雰囲気や強度でサッカーに取り組んでいるのか体感すること。

2　研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

令和５年３月 18 日から３月 27 日までオーストラリアのブリスベンでホームステイをしながら Brisbane Christian College という学校に通い、Rochedale Rovers というサッカーのトレーニングに参加した。

(1) Brisbane Christian College

現地の学校に通い、英語で授業を受けたり、友人を作ったりした。
授業で先生が言っていることは理解できたが、友達が笑いながら話しているときに話についていけなかったので、日本の高校でフォーマルな英語を学ぶだけでなく、自分自身でオンライン英会話や YouTube などを使って、カジュアルな英語も身に付ける必要があると感じた。

(2) Rochedale Rovers

現地のサッカーチームのトレーニングに参加した。トレーニングは短く強度の高いものだった。コーチングやプレースタイルなど、日本のチームと異なる点が多くあり、日本のサッカーの良い部分とそうでない部分がわかるいい機会だった。
現地で私のサッカーの練習参加をコーディネートしてくださった、元プロサッカー選手で、現在はオーストラリアでサッカーのチームのコーディネイターとして日本とオーストラリアの架け橋となっている卜部太郎さんという方から、現役時代の貴重な話やどのように海外でビジネスを成功させたのかなどの話を聞いて、自分の得意分野を生かし海外で起業し活躍するにはどうすればよいのかということがわかった。

(3) Home Stay

キリスト教徒のお宅にホームステイした。ホームステイを通して、食事や宗教的な行事などの文化の違いを体験することができた。世界には様々な文化や信条を持つ人がいるということが分かったので、異文化に対する理解が深まった。

3　感想等

今回の研修で、主に英語学習と今後の自分の生活についての考え方が大きく変わった。

英語学習では、今まで自分はテストがあるから勉強するという考え方をしていたが、実際に海外に行ってみると、自分が伝えたいことがうまく伝えられず悔しい思いをすることがあった。また、英語を話せることで、会話をできる人の層が大きく広がり人間としての厚みも増すということも感じた。そのことから、これからの英語学習は、目先のことだけではなく、より広い視野で、より実践的な英語を習得することを目的として取り組んでいきたい。

今回の研修で、オーストラリアに住む人たちは時間の使い方がうまいと感じた。みんな仕事や学校、スポーツをしながら、しっかりと自分の時間を確保して、趣味や家族との時間を楽しんだりして、充実した生活を送っている人が多いと感じた。今現在の私は、毎日学校での勉強や部活だけの単調な生活をしているので、今後は、限られた時間の中でも自分の時間を確保して趣味などいろいろなことに挑戦してより充実した生活を送れるようにしたいと思った。

この研修を通して、国際的な役割を担える存在になるために、英語の能力を高め、プラスアルファーで自分の強みが出せる分野について深く学びたいと思った。このような貴重な機会をいただきありがとうございました。

参加したプログラム	海外体験促進事業(短期留学)		訪問国		アメリカ合衆国	
校内発表会の有無（○）	有　・　(無)	(有の場合)	日にち	―	（対象）	全校・学年
学校名	聖隷クリストファー高等学校	氏名	藤﨑　理斗		学年	2

1　目的・応募理由

私は、外国語や海外に興味･関心を持っており、高校在学中に海外への留学経験をし、将来は、国際的な分野で働きたいと中学生の頃から思っておりました。今回、留学する機会を得られ、アメリカでの生活を通し、実際に日本とは違う文化や生活に触れながら、日本の良さを再認識し、さらに自ら積極的に他者とのコミュニケーションを図っていくことで、１人も自分の事を知らない人達の中で、いろいろと挑戦を続け、自分の人生の選択が広がる時間にしていきたいと思い海外留学を希望しました。

2　研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

1)　語学研修等の授業日程 月曜日～金曜日（土日休み）

学校：全体で 20 人ほど・３クラス

・10 時 00 分～11 時 30 分
・11 時 50 分～13 時 10 分
　授業内容：文法や英単語の勉強
・14 時 00 分～15 時 00 分
　授業内容：話題に対しての reading
・15 時 05 分～16 時 00 分
　授業内容：アメリカ文化や生活についてクラスメイトとディスカッション

クラスメイトは UAE､ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ､ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ､ﾀｲ､ﾍﾟﾙｰの方など
テストは writing が苦手でした。
天候不良(マイナス 20 度)により､休校となり急遽オンライン授業になった日もありました。
ランチはハンバーガーが多かったです。

NY に友達５人で旅行

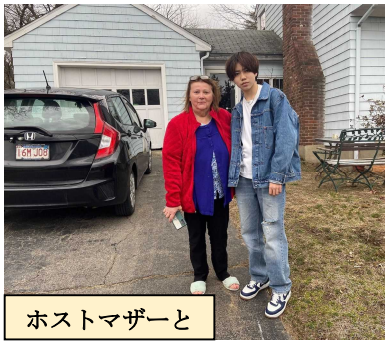
2)　休日の過ごし方

できるだけ､友達と外へ出て､遊びに行きました。(動植物園･バスケの試合観戦など)
公園でスポーツをしたり、ご飯を食べに行ったり、ペルー料理を初めて食べました。
ホストファミリーとは、ショッピングモールに行き、食材の買い物をしたり、休日の夜は、いつも映画を一緒に観ました。
３月には NY へ旅行に行きました。

3)　ホストファミリーやアメリカでの生活

ホストファミリーは 70 代の女性と 40 代の男性の２人のファミリー。朝・晩の食事を毎日作ってくれました。洗濯も週１回。一緒に洗濯してくれました。ホストファミリーは優しくしてくれました。

また、語学学校と家とは距離があり、バスと地下鉄で１時間以上かけて通いました。バスが遅くまで走っていないので、たまにUber タクシーを使って、家まで帰りました。アメリカは物価が高く、チップ制度もあり、経済的に厳しい生活でしたが、楽しく過ごすことが出来ました。


ホストマザーと

３　感想等

私は、このアメリカ留学で、たくさんの人達と交流を育みながら、語学だけでなく、自分自身を成長させるかけがえのない時間を過ごすことができました。

アメリカでの初めての生活を過ごしていく中で、私の身の回りの人達、仲間、友達、家族の大切さを痛いほどに感じました。留学が始まって最初の１週間は、今でも思い出すほど、自分にとって辛い１週間でした。初めて経験する日本と違った食生活、習慣、時差など全てが新しく、慣れるのが困難で、誰かに相談しようとしても、自分の事を誰も知らない人達、さらに言語も違い、通じない、嘆きたくても嘆けない、自分だけで生きていくことの難しさを突き付けられた日々を過ごしました。１週間経ったころ、「このままではいけない、何のためにここまで来たのだろう」と思い、「自分からまず話しかける、何事も自分から」と気持ちを切り替え、その一歩を踏み出す決心をしました。まず、同じ語学学校の人に、不細工な英語でランチに誘い、友達６人と食事をしました。この食事会をきっかけにし、やっと、コミュニケーションを取ることができ、帰国した今でも、連絡を取り合う最高の友達となりました。

そして、学校でも、友達ができ、心に余裕が出来たことにより、ホストファミリーにも悩みを相談したり、自分の事や日本の事など、お互いに話すことができ、良い関係を築くことが出来ました。

友達とのお別れ party

この経験を通して、どんなに格好悪くても、不細工でも、自分を変えようと、成長させようと、踏み出す一歩は、自分を救う、とても大切なものだと深く感じました。

また、留学を通して、私は日本人とは異なった人柄、生活文化など多くの事を学びました。私が一番感銘を受けたのは、「感謝　Thank you」についてです。アメリカでは、コンビニエンスストアや飲食店など、ほぼ全ての店で聞こえてくるのは「Thank you, Have a good day!」という声です。これは、店側だけではなく、お客さん側もどちらも言っています。日本では、お客さんは「ありがとう」と言っていない人がいるのが現状です。お店の方が「ありがとうございます」と言っているのに対し、イヤホンをつけ、スマホを見て、何も返さない、当たり前という態度は、意識を変えるべきだと感じました。日本には「おもてなしの心」があります。これは、海外からも認められ、日本人のおもてなしの心は素晴らしいと言われています。つまり、日本人は「食べ物を残さず食べる」など「口には出さない感謝」の表現が良い点であり、アメリカ人は「Thank you」をしっかり伝える「口に出す感謝」が良い点だと今回、気づきました。日本人から見ると、アメリカの人のリアクションは少し大げさな感じを受けますが、私はとても好感が持てました。どちらも感謝の伝え方としては、良い方法だと思い、今後は、両方のいいところを活かしていけるよう実践していきたいと思っております。早速、帰国後、お店で、「口に出す感謝」をしたところ、家族が変化に驚いており、留学で学んできたことを喜んでくれました。今後も続けていきたいと思います。

以上が、私が留学で学んだことになりますが、この３か月間で学んだ多くの事を活かし、今後の社会、進路選択に活かしていきたいと思います。

関わってくださった方、皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

報告　ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム（高校生の海外体験促進事業）

1　概　要

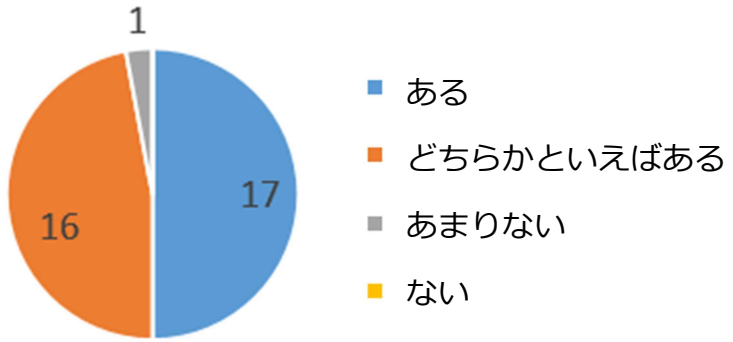
新型コロナウイルス感染症により大学連携企画留学が中止となる中、昨年度に続き、令和４年度の代替プログラムとして、ジョージタウン大学との連携により実施しました。

オンラインによるリスニング、スピーキングスキル等の向上及び多様な価値や異文化理解を図ることを目的として、自らの国際化に高い意欲・関心を有し、主体的に海外留学等の新しいチャレンジを志す県内高校生を対象に実施しました。

	内　容
連携大学	ジョージタウン大学 （ワシントンD.C.） ※平成30年度から、ふじのくに地域・大学コンソーシアムと連携して海外研修等を実施
コース名	American Conversational English Program（ACE Program） （ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム）
実施内容	Zoomミーテイングによるオンライン英会話プログラム
実施期間	・１日90分、10日間、15時間のプログラム ・授業時間　午前９時から10時30分まで（日本時間） セッション　令和４年８月９日（火）～８月20日（土）
応募要件	・英語運用能力が、B1 CEFR以上の実力を有する者 （例）実用英語技能検定 準１級～２級の中間程度 ・各種英語資格・検定試験の４技能スコアにより判断
募集人数	原則50人
参加者数	36人（３クラス） ・事前テスト（オンライン）により、習熟度別に分けて実施
実施形態	・Zoomミーティング、GoogleClassroomによる教材配信
内容	・日常生活での英語使用に焦点を当て、個人の関心事、アメリカの文化や政治などのトピックについて、各クラスで議論する。 ・議論の様子を基に、米国講師が各個人に英語の運用スキルについて、フィードバックを実施する。 ・プログラム全体を通して、自信を持って英語を話す姿勢を身に付けるとともに、リスニング、スピーキングスキルの向上及び異文化理解を深める。 ・地元の学生や高校生との交流する。

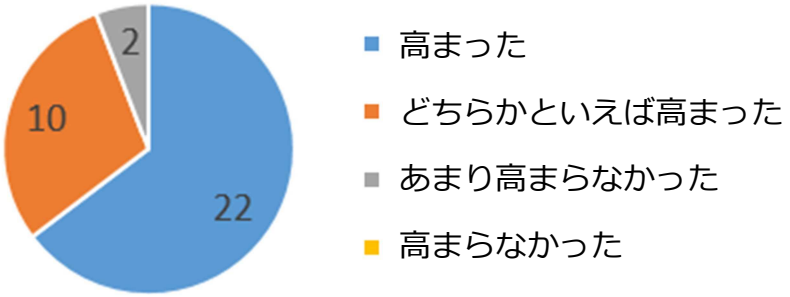
2　参加生徒への調査結果

英語４技能（聞く、読む、話す、書く）の中で、特に「聞く」「話す」ことを重視した研修内容でしたが、リスニング力、スピーキング力が向上したという実感はありますか。



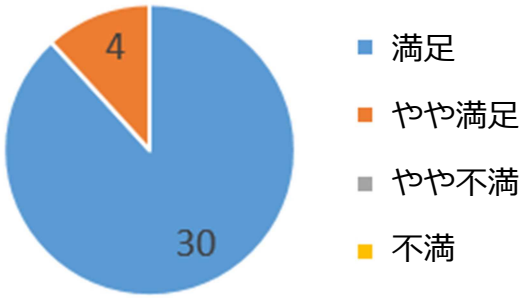
ほとんどの受講者がリスニング力、スピーキング力が向上したと回答

今後、英語外部検定（英検・TOEFL など）にチャレンジする意欲は高まりましたか。



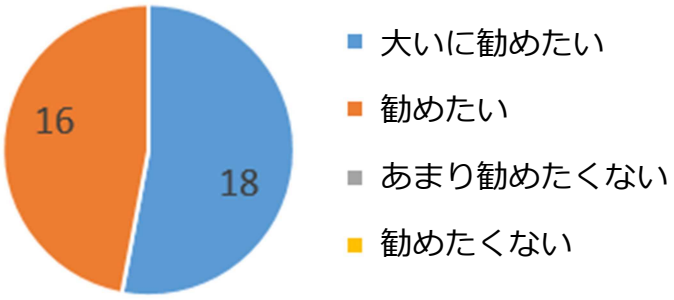
ほとんどの受講者が英語外部検定（英検・TOEFL など）にチャレンジする意欲が高まったと回答

研修の満足度はいかがでしたか。



受講者全員が満足と回答

（次年度も同内容にて実施する場合）
先輩や、後輩に対して、参加を勧めたいですか。



受講者全員が「参加を勧めたい」と回答

ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム

静岡県立榛原高等学校　２年　広畑　乃羽

１　オンライン英会話プログラム（以下、プログラム）の学習内容

・２、３人のグループに分かれて与えられたトピックについてディスカッション
・英語講師やメンバーとのＱ＆Ａ
・日本や海外の文化をプレゼンテーション
・プレゼンテーションのために宿題でスライド作成
・英語の動画を見て内容の聞き取りや情景描写

２　プログラムによりスキルアップできたこと

・文法や発音の正確性
・積極性
・語彙力
・質問力

３　今後、挑戦したいこと

プログラムを通して英語力と同時に対話力も高められたと思うので、英語を使って人と関わる活動や外国人に日本語を教えるボランティアなどに参加してみたいと思っています。また、高度な英語試験に挑戦したり、いつか海外留学やホームステイをしたりして、さらに英語力を高められるよう努力したいです。

４　感想等

私は普段、学校の授業以外で英語を話すということがめったになく、しかも相手は全く知らない県内の高校生ということで、熱心にプログラムに参加できるかどうか初めはとても不安でした。しかしこの10 日間を通して、英語力だけでなくコミュニケーションや積極性の大切さなど、たくさんのことを学ぶことができました。初対面の人と母国語でない英語を使って話すということは、すごく勇気が必要でとても緊張しましたが、近くに同じような目標を持った仲間がいるということを知り、より一層プログラムへ意欲的になることができました。また勇気を出して話すことによって自信がつき、自分を成長させることができたと思います。

このプログラム参加後に、さらに自分の英語力を高めたいと思い、英語検定準１級に挑戦し、合格することができました。

ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム関係者の皆様、この度は貴重な機会を設けていただき、本当にありがとうございました。

報告　グローバルハイスクール

遠隔地におけるグローバル人材の育成と学校魅力化

静岡県立下田高等学校

1　グローバル教育の概要

少子化に伴う学級減という状況下、遠隔地(僻地)の学校がいかにグローバルな視点で人材育成に取り組み、学校の魅力化を図るかは喫緊の重要課題である。「下田から世界へ発信！！」プロジェクトと銘打ち、グローカル CITY プロジェクトに取り組む開国の町下田市との連携を通して、遠隔地における地域課題を検証し、国際交流と有機的に結び付け、グローバルな視点に立って、積極的に国際社会とかかわり、将来において国際的な役割を担う人材を育成する。

2　実施計画と具体的内容

(1)姉妹校であるニューヨークのタウンゼント・ハリス高校、下田市の姉妹都市ニューポート市との研修交流を通して国際性を育み英語力を向上させる。

(2)下田市グローカル CITY プロジェクトと下田高校グローバルハイスクール事業の連携により、下田市の国際交流事業に共同参画する。

①黒船祭（吹奏楽部）②国際交流事業（市在住の外国人との交流）

(3)外国語教育に力を入れる大学等を訪問し、国際性を育むために必要な語学力を強化する。

(4)海外の高校生や留学生と国際交流を行う。

(5)「総合的な探究の時間」を体系的に構築し、外部機関(大学講師、地元産業界等)と連携して実践的な探究活動を行い、地域課題を考える。

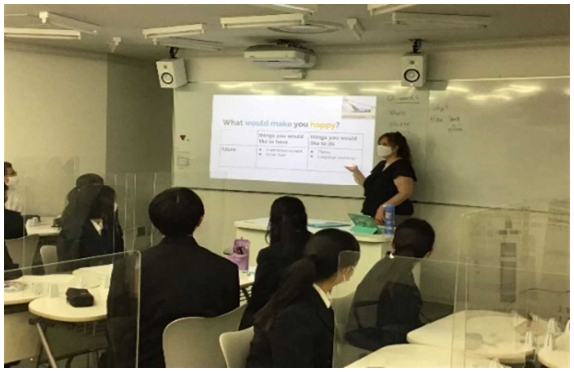
3　各年度における取組（令和４年度）

(1) タウンゼント・ハリス高校、ニューポート市との交流は、下田市と連携し、７月下旬の実施予定で動いていたが、コロナ禍のため実現できなかった。来年は７月 29 日(土)～８月５日(土)の日程で計画している。可能であれば下田市と合同で実施の予定であるが、下田高校単独でも実施する。

(2) 下田市グローカル CITY プロジェクトと下田高校グローバルハイスクール事業の連携

毎年５月に行われている黒船祭に吹奏楽部が参加し、開会セレモニーにおいて、アメリカ海軍海兵隊と共演。英語でコミュニケーションをとり、生きた国際交流ができた。また、記念パレードにも参加し、祭りの雰囲気を盛り上げた。

(3) イングリッシュ・キャンプ in 神田外語大学



10 月 30 日(日)～31 日(月)の１泊２日で神田外語大学を訪問し、外国人教師によるオールイングリッシュの英語レッスンを受講。清潔感のある大学のキャンパスで英語漬けの時間を過ごし、語学力を磨いた。また、下田高校卒業生の現役大学生から学校の紹介や学生生活の楽しみなどを聴き、高校生にとって刺激のある、有意義なツアーとなった。参加生徒 20 名、引率教員４名。

(4) 海外の高校生の受け入れ

１学期末にアメリカとイタリアからの高校生を一人ずつ受け入れた。一緒に授業を受け、海外の学校の様子や生活文化を学んだ。すぐに仲良くなり、和やかな国際交流となった。

(5) サイエンスダイアログ

11 月 24 日(木)、日本学術振興会のサイエンスダイアログ事業と提携することで、若手外国人研究者を講師に迎え、自身の研究と出身国に関係した講演を実施。講師は国立研究開発法人海洋研究開発機構の Dr. Julien Michel 先生。『有孔虫がつなぐフランスと日本の科学研究』と題し、オールイングリッシュで講演。講演前には有孔虫（星の砂）の顕微鏡観察を行い、講演後も生徒たちは英語で先生に質問した。

(6) 東京研修

10 月 13 日(木)～14 日(金)、２年生理数科の生徒たちが１泊２日で東京研修を実施。１日目は東京大学を訪問。本校卒業生で東大２年の先輩に安田講堂前で大学生活について説明を受けた。また、中野セントラルパークにて筑波大学元教授の三島次郎先生から南極観測隊としての極地探検の経験を聴いた。２日目は横須賀リサーチパークにて工学博士の太田現一郎先生から黒船来航以来の無線通信の研究史を学んだ。

(7) 地域課題研究

11 月 26 日(土)～27 日(日)、「地域の手仕事に出会う旅」をテーマに４つのコースを設定し、地元企業での実習を通して、地域の産業の現状と課題を考えた。コースは、①開国タイムトラベル（開国の地下田で活躍する下田芸者を知る旅)、②着物で制作（着物の魅力を伝えるための着物を着ながら楽しむイベントづくり)、③下田街歩き（大正時代から続く老舗和菓子屋でどら焼き体験)、④須崎の恵み（下田の漁師から学ぶ干物開き体験)。１、２年生の 25 名が参加。

(8) 英語スピーチコンテスト

グローバル教育の一環として、英語スピーチコンテストにも積極的に参加した。1 年生の高橋佳子さんが 10 月に行われた県大会で見事優勝し、11 月の東海北陸大会に進出、ここでも３位入賞を果たした。全校集会において、皆の前で英語でのスピーチを披露した。

４　研究の成果と課題

今年度の一番の目標であったニューヨークのタウンゼント・ハリス高校との交流が、コロナ禍によって実施できなかった。来年度はアメリカ研修を是非とも実施し、生徒にとって貴重な体験をさせたい。また下田市との連携をさらに強化し、探究活動を通しての人間教育に力を入れたい。

報告　グローバルハイスクール

グローバル化する社会に目を向け、地域の課題をグローバルな視点でとらえ、解決方法を模索しながら行動する人材の育成

静岡県立静岡城北高等学校

1　グローバル教育の概要

グローバル科への学科改善２年目を迎え、様々な活動を通して「グローバル化に伴う世界と地域の課題解決に行動する人」の育成を目指し、地域社会での課題解決のために、生徒が有する高い語学力、積極的な行動力と異文化に対する豊かな好奇心を活用する機会を提供している。感染症による海外渡航や対面活動の制限がある一方で、オンラインシステムの利用や地元の人的資産を活用することで、学科の目標達成のための方策を模索している。また、普通科生徒のグローバル意識の喚起、高揚と活動への参加の増加を目指している。

2　実施計画と具体的内容

【地域研究課題】

グローバルな視点で静岡のグローカル課題を解決し、静岡の魅力を発信する。地域の現状とグローバル化が進む県内産業界を探究し、そこで得た知識を英語で発信する。県内で暮らす外国出身の方々や、海外に顧客を持つ県内で働く方々からお話を聴くことをきっかけとして、グローバル化によって生じている静岡県内の課題に気づき、その解決方法を考え、実際に行動することを目指す。

【国際性の育成】

グローカル課題解決に必要なグローバルな視野と確かな英語力を身に付ける。そのために、海外研修や外国人との交流活動を企画し、生徒が英語を使って意思伝達をする機会を設定する。

3　令和４年度の取組

【地域研究課題】

(1)　「グローバルな交流」の実施

グローバル科１年生を対象に、静岡県出身のグローバルに活躍している学生、職業人３人を招き、異文化での生活、多文化共生時代の職業観、大学での学び等についての講話を実施。

(2)　福井県立武生東高校が実施する「ワールドハピネスフォーラム」への参加

グローバル科２年希望生徒７人が、７か国の高校生と地域の課題についてオンラインで交流。

(3)　「グローカル研修」の実施

グローバル科１年生と静岡大学で学ぶ留学生との交流。生徒自身が解決したいと考える地域課題について英語でのプレゼンと、それに対するフィードバック。

(4)　「静岡大学特別講義」の実施

モーリシャスとの交流事業の一環として、静岡大学鈴木款教授とカサレト・ベアトリクス・エステラ教授による、海の生態系と環境についての英語での特別講義を実施。グローバル科 16 人、普通科３人が参加。

(5)　「グローバルニュースレター」の発行

グローバル科の生徒が中心となり、社会性の高い話題について意識啓発ポスターを作成。全校生徒にオンライン配信。

【国際性の育成】

(1)　モーリシャス国 Loreto College Bambous Virieux 校とのオンライン交流

(2)　タイ国ラートウィットバンケーオ高校で日本語を学ぶ高校生とのオンライン交流

(3)　インドネシア国立ブカシ第 10 高校の高校生とのオンライン交流

(4)　生徒会役員生徒の呼びかけによる、モンゴルに寄贈するランドセルの収集活動

(5)　グローバル科１・２年生の、モンゴル国からの高校生訪問団との交流

(6)　グローバル科１・２年生を対象に、通訳の西田大氏を招き、グローバル科講演会を実施

(7)　グローバル科１年生を対象に県内 ALT７人によるサマーセミナーを実施

(8)　静岡市内合同エンパワーメントプログラムを実施。普通科１人、グローバル科 17 人参加

(9)　ジュビロ磐田の通訳、ジョージ赤阪氏を招き、グローバルセミナーを実施

(10) 海外研修に代えて、ブリティッシュヒルズ研修を実施

(11) グローバル社会見学の実施。グローバル科１年生が、東京大学、神田外語大学、東京学芸大学附属国際中等教育学校、株式会社商船三井を訪問。探究活動の先進校、大学、グローバル企業への訪問をとおして、多様な視点の獲得と英語力及び進路意識の高揚を図った。

４　研究の成果と課題

グローバルハイスクールとしての２年間の取組を通して、普通科の生徒の間である程度のグローバル意識の高揚は見られるようになった。昨年度９月と今年度 12 月に実施したグローバルアンケートでは、「学校全体で、グローバルな視点を持つ生徒を育成しようとしていると感じる」と答えた普通科生徒の割合は昨年度から約 1.2 倍に増えている。また、「グローバル科・国際科から刺激を受けたことがある」と回答した普通科の生徒の割合は約 1.6 倍に増加した。これは、グローバル科の生徒たちの課題解決に向けた行動力や積極性、発表時の堂々とした態度などが、普通科の生徒に好影響を及ぼしているためである。

「グローバル活動」を、海外、外国人との交流という狭義でとらえている生徒や教職員がまだ多い。学校全体でグローバル教育をより一層推進し、SDGs をはじめ、身近な課題から地球規模のものまで、社会のあらゆる問題にグローバルな視点を持って取り組もうとする意識を、普通科生徒や教職員に更に普及させたい。そして、地域の課題をグローバルな視点でとらえ、解決方法を模索しながら行動することができる人材の育成に努めていきたい。

サマーセミナー

モンゴル高校生派遣団との交流

報告　グローバルハイスクール

探究活動を通した海外研修によるキャリアデザインの動機付け

日本大学三島高等学校

1　グローバル教育の概要

本校では、令和４年度よりコース制になり、各コース特長を活かした教育活動を展開しています。その基点となるのが、「総合的な探究の時間」です。特にグローバルな視点を育成するために、グローバル留学コース以外でも、海外を身近に感じることができるプログラムを計画しています。

本校が目指すグローバル人材に必要な要素は、21 世紀型スキルを修得し、グローバルな視野を獲得することです。これに向けて、「総合的な探究の時間」を活用して、さまざまなプロジェクトに挑戦し、課題解決へとつなげていきます。

特に海外におけるプログラムは、アクティビティベースの研修を実践する中で、語学の活用のみならず、グローバルな視野の獲得の一助として、キャリアデザインのきっかけとなる経験を積むことを目指していきます。

2　実施計画と具体的内容

初年度の計画としては、キャリアデザインのための海外経験の充実を目標に掲げています。

国内を起点として、21 世紀型スキルの修得、ICT を活用した語学力向上、地域の中でのグローバルな視点の発見や探究活動を計画しています。21 世紀型スキル修得の一環としては、プレゼンテーションスキルの向上を目指し、12 月 17 日に関西学院大学上之原キャンパスで実施された「中・高探究の集い 2022」に参加し、ポスターセッションを通してグローバルな課題（ジェンダーに関して）を提示することに挑戦しました。また、２月 15 日、18 日に探究活動の成果発表の場として、「未来の仕事を探究する」というテーマのポスターセッションを実施予定です。

海外基点としては、グローバルな視点の涵養、海外体験の充実、海外長期留学を計画しています。海外体験の充実という点においては、希望者を対象に、マレーシアへの海外探究研修を３月 21 日～28 日までで実施しました。（9 名参加）当研修は、語学力向上を目的とせず、あくまでも現地でのアクティビティを重視したものとし、語学の必然性を感じながら、新しい体験をしていくことを目的としました。現地では、地元の方々と積極的に交流を図ることで、異文化理解を深めました。また、海外長期留学は、グローバル留学コースの生徒全員（16 名）が、南オーストラリア州アデレードにおいて、2023 年１月 26 日より同年 12 月 19 日まで、ホームステイをしながら現地公立高校に通い、さまざまな経験をしていくものとなります。

３　各年度における取組

【令和４年度】

地域研究課題・・

○　地域探究プログラム
　◆　地域の中のグローバルを発見
○　キャリア探究プログラム
　◆　地域の中のオリジナリティを発見
○　総合的な探究の時間
　◆　AAR サイクルの実践
○　学びの意欲向上
　◆　高大連携講座の履修

国際性の育成・・

21 世紀型スキル修得

○　iPad 活用による ICT スキルの修得
　◆　特にグローバルな視点でのリテラシー理解に焦点を当てる。
○　コミュニケーションスキルの向上
　◆　アプリケーション活用によるプレゼンロジックの修得に焦点を当てる。

留学先との交流

○　留学中の本校生や海外事情の情報収集
　◆　海外研修先に予定している豪州に所在する本学施設周辺のリサーチ
○　現地校の生徒との交流
　◆　南豪集の提携校との異文化交流
○　海外探究研修
　◆　マレーシア･コタキナバル海外探究研修

【令和５年度】

地域研究課題・・

○　地域探究プログラム
○　キャリア探究プログラム
○　総合的な探究の時間
○　学びの意欲向上（高大連携）

国際性の育成・・

○　21 世紀型スキル活用
　◆　グローバル＆ローカル課題の発見と解決方法の模索
○　外国語活用実践
　◆　実用英語の実践（対面／オンライン）
○　海外異文化探究プログラム
　◆　語学特化ではなく、探究心を涵養するアクティビティを中心にした異文化体験プログラム

４　研究の成果と課題

カザダン族の民族ダンスを楽しみました。

研究の成果としてあげられるのは、探究活動を積極的に進めるためには、生徒の動機づけが重要であるということが見受けられた点です。先述したグローバル留学コースのポスターセッションに言及すると、夏期語学研修で訪れたフィリピンで体験したジェンダーに関して発表した際に、他校の同年代から投げかけられた質問や提案によって、自分たちの今後の学びに対する課題が明確になりました。長期留学中の学びの膨らみに期待したいところです。

今後の課題としては、探究活動をいかに PBL として設定するかという教師の働きかけと、生徒の探究活動を通して、深い学びへとつなげていけるかを掲げていく予定です。

令和４年度末に実施したマレーシア研修は、アクティビティを通して、生徒の探究心を深めていく取り組みとなりました。この経験を参加していない生徒と共有する機会を設けることで、令和５年度の海外研修への参加者を増やしていき、グローバル人材の育成に寄与していきたいところです。

報告　グローバルハイスクール

格差や差別で困っている人と接することで社会問題を理解し、自分との関わりや体験を通して学ぶ

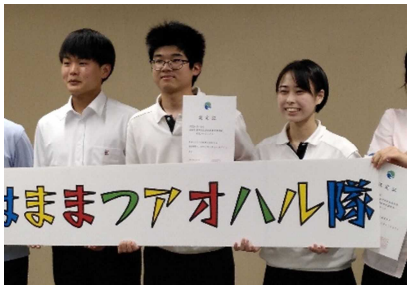
静岡県立浜松湖東高等学校

1　グローバル教育の概要

外国人労働者を多く受け入れている地域として、人種や差異を超えて互いに助け合い、共生できる社会の実現を目指す必要があり、このような多文化化した新しい社会を支えていく世代には、グローバルな視点を持った生き方や在り方を考え、選択していくことが求められる。浜松湖東高校では探究活動を推進し、子ども学習支援と、フェアトレード、ジェンダーに関わる活動を行っている。子ども学習支援「コトバショ」では外国籍やひとり親世帯で経済的に恵まれない子どもへの支援を行い、生徒が運営を行ってきた。フェアトレードはコーヒーの公正な取引について学び、環境負荷について調査し、社会的認知度を高めることを目的としている。ジェンダーについては学びを深めることで、身近な校内規定の見直しを提案した。

2　実施計画と具体的内容

コトバショ（神久呂協働センターにて）



R4 年度 青春浜松応援隊（認定式）

神奈川・東京研修（留学生との意見交換）

＜コトバショ＞

【目的】子どもの貧困を学び、格差を是正する取り組み

【内容】

・すべての子どもに対する学習支援

・神久呂協働センターにて月２回の実施（R3 年 11 月開始）

・参加者 13 人（中学生９人、小学生４人）、運営高校生 30 人

【活動】

社会福祉協議会からのアドバイス、支援／聖隷クリストファー大学学生によるアドバイス、監督運営補助／宣伝（ポスター作製、中学校訪問、ＰＲ動画作成、高校生ボランティア募集）／地域の子ども食堂や、学習支援ボランティアへの参加／他地区の協働センターからの依頼（寺子屋での学習支援ボランティアやイベントの運営補助）／国際アカデミー日本語学院にて学院長の講演、外国人留学生とのワークショップ・意見交換／外国語のポスターの作成／国際理解教育（難民について）

【今後】国際交流センターでの宣伝（外国人生徒の受け入れ）

＜ジェンダー＞

【目的】性的マイノリティとして生きづらさを感じている人や差別で困っている人に対して共感する態度を育てる。

【内容】以下の講演を通して、性的マイノリティについて学び、学年全体で個性や違いを認めあうことの大切さを実感した。そして代表生徒による生徒課長との折衝を通して R4 年度９月より女子生徒のスラックスの着用が認められた。

・講演 静岡大学社会学 笹原恵教授「人権・多様性・ジェンダーについて」R3 年度

・講演 湖東高校 OB 南咲空氏「多様性について」R3 年度

・講演 トランスジェンダー協会会長 鈴木げん氏「LGBTQ」R2 年度

＜フェアトレード＞

【目的】フェア(公正)な社会づくり

【内容】

フェアトレードの学習→アンフェアなトレードが社会と環境に与える影響の調査

【活動】

フェアトレード動画制作(コーヒードリップパックのパッケージに添付)／徳之島コーヒー農園研修／東ティモールコーヒー農園リモート研修(R3 年)／ラオスコーヒー農園のリモート研修／文化祭で販売・校内発表／地区の協働センターまつりにて販売／国際理解教育（難民について）

【今後】ラオスでのコーヒー農園研修

途上国と適正な価格で取引する「フェアトレード」への理解を深めようと、県立浜松湖東高校（浜松市西区）の生徒らが3月23～24日、鹿児島県の徳之島を訪れ、コーヒー豆の収穫体験を行った。

生徒らはコーヒー豆のフェアトレードについて学んでいる。コーヒー豆の栽培、収穫の苦労を知らずに「適正価格」の議論はできないとして、コーヒー豆の産地を訪れることにした。

有志の2年生10人が参加し、収穫や農家へのインタビューを行った。収穫を手作業で行うなど手間がかかっていることや、農地の環境によって豆の生育状況が変わることを学んだ。

参加した波多野孝佑さん(17)は「熟した豆の色を見分けるのが大変だった」と話した。西田侑以さん(17)は「今回の体験を踏まえて、フェアトレード商品を買う意義を広めていきたい」と力を込めた。

コーヒー豆を収穫する浜松湖東高校の生徒ら

コーヒー豆から学ぶ社会

浜松湖東高 生徒らが収穫体験

R4 年 4 月 1 日読売新聞

R4 年 3 月 28 日鹿児島讀賣テレビ

3　各年度における取組

コトバショを継続するため後輩高校生ボランティアをさらに募集し、次年度への運営の引き継ぎを行う。また外国人生徒の募集を行い、外国籍の子どものおかれた状況を理解し支援体制を整えていく。フェアトレードは、今年度中止になったラオスのコーヒー農園での研修を来年度は行う予定。フェアトレードが農家の生活と環境に与える影響の調査をおこなう。

4　研究の成果と課題

【成果】

・外国文化や言語、国際問題、社会問題に関心を持ち、自らできることを考え行動に移すことができるようになった。

・浜松で外国人との共生社会を目指し、多様性を受け入れてみんなが生きやすい社会づくりをしていくことに使命感を持つようになった。

・外国人労働者や貧困・差別について思いをはせることで、商品購入の指標(商品の背景が見える)とすることができるようになった。

・身近な格差や差別で困っている人と接することにより社会の抱える問題を明らかにして、自ら行動に移すことができるようになった。

・高校生でも社会問題に対してできることがあることを知り、大人も問題の是正に取り組んでいることを感じることができるようになった。

・プロジェクトの活動が生徒の進路実現や進路選択に大きく影響した。

・人権についての理解が深まった。

【課題】

・コトバショへの外国人生徒の受け入れが課題である。国際アカデミー日本語学院で頂いたアドバイスをもとに、宣伝活動と受け入れの体制を整えていく。

報告　グローバルハイスクール

実用的な英語の習得が難しいとされる学校に参考となる課外活動を含めた新たな英語指導法を模索する

静岡県立相良高等学校

1　グローバル教育の概要

本校では、従来の英語教育に加え、学校全体として「実践を伴う課題解決型学習による探究的な学び」の取組みに力を入れようとしている。そこで、通常の英語教育では効果が限定的である学校が、実践的な英語学習や、英語話者とのプロジェクト学習を通じてどのようにすれば効果の高い英語教育ができるかというロールモデルの作成に注力した。

本校のような学校において、教科書や参考書を使ったインプット中心の学習スタイルでは著しい学力の向上は望めず、さらには大学受験などの学習動機がない生徒に対して英語をどのように身につけさせるべきか、どのように英語学習へのモチベーションを向上させるかが本プロジェクトで解決したい課題とした。そこで、「アウトプット中心」「課題解決型学習」「地域や他校との交流」をテーマに、英語を手段として使用する場を生徒たちに提供し、英語を第一言語とする他者と交流しながら英語を学んでいく学習方法を本プロジェクトの基盤とした。

2　実施計画と具体的内容

1．インプット中心からアウトプット中心に英語を学習していくオンライン英会話プログラムの実施

従来の英語学習の中心であったインプット型学習から、実際の日常会話をしながら英語を覚えていくアウトプット中心の学習にするために、モデルとしてグローバルチャレンジサークルの生徒がフィリピン講師と週１回のオンライン英会話を実施する。

2．実践を伴う課題解決型学習を目的とした HIS との相互訪問及び英語版牧之原市パンフレットの作成

北海道インターナショナルスクール(HIS)と交流事業の柱として、６月と８月の相互訪問及び牧之原市名産品パンフレットを英語で作成を行う。本事業はプロジェクト型学習を通じて英語習得のみならず、英語話者とのコミュニケーション力、地域貢献、協調性などの習得を目的とする。

3．グローバルで活躍する人材との交流を目的とした牧之原市サーフィン事業に参画

牧之原市が推進するスポーツのまちづくりに連携し、オリンピックレガシーとしてのサーフィンを中心とした国際交流事業に協力する。

4．地域貢献を目的としたボランティア活動に参加

静岡県や牧之原市等が主催する在日外国人向けのボランティア活動（各種イベントの手伝い、募金活動、日本語教室のサポート）の協力を行う。

3　令和４年度における取組

（1）生徒の選択肢の拡大や多様な体験、能力開発を目的としサークル活動「グローバルチャレンジ」を発足した。令和４年度より開始し、前期 25 名、後期 38 名の生徒が参加。（４月）

（2）実践的な英語学習の取り組みとして週に１回のオンライン英会話学習を実施し、家庭学習でも 50 回分の受講ができる環境を整えた。

（3）牧之原市が進める施策であるオリンピックレガシーとしてのサーフィンを中心とした国際交流事業に協力し、東京オリンピックサーフィン金メダリストカリッサムーア選手のオンラインミーティングや受け入れ事業、当該選手主催の財団「Moore Aloha」のサーフィン育成プロジェクトに参画した。

その際、一流アスリートの考え方、練習方法、食事法などを教授してもらい英語だけではない学びを得ることができた。(11 月)

（４）北海道インターナショナルスクール（HIS）と２年間の交流提携を合意し、相互訪問の実施。

HIS からは３名の生徒を受け入れ、静波サーフスタジアム、グリンピア牧之原、牧之原山本園を訪問しサーフィンとお茶を英語で紹介した。（５月）また本校 23 名の生徒が語学研修として HIS を訪れ、授業見学やハイキングを通じて交流を深めた。特にアメリカ流の教育を直に体験し、文化や価値観の違いに触れることができ生徒にとって大きな財産となる経験ができた。(10 月)

カリッサムーア選手との交流

HIS での授業風景

HIS の生徒とのハイキング

（５）HIS との協業で HIS と月１回の定例オンラインミーティングを実施し、パンフレット作成にあたった。「サーフィン」「お茶」「観光」という調査内容別に３チームに分け、それぞれが地元企業や宿泊施設に訪れインタビューを実施し英語に翻訳、パンフレット記事作成まで行った。次年度以降で海外の日本食店をターゲットに本パンフレットの設置配布依頼を行う予定である。

（６）牧之原市主催の市在留外国人への日本語教室に参加し、日常生活、防災、病院、買い物、ごみの出し方などのテーマで日本語と英語で会話を行った。（９月～10 月）また静岡県が実施するモンゴル交流事業に協力した（12 月）

４　研究の成果と課題

本プログラムを通じて、従来の英語学習の枠組みとは異なる学習方法を模索して行く中で、プロジェクト型学習や体験学習が、英語力のみならず生徒の創造力、コミュニケーション力、コラボレーション力を養える感触を得た。また週１回のオンライン英会話では「覚えた英語を使う」から「使いながら英語を覚えていく」学習法を行い、受講生徒の英語会話力が著しく成長をとげた。さらには参加生徒の授業内での積極的な発言が周りの生徒たちにも波及をし、クラス全体の意欲が向上したことも実感している。この１年を通じて、「勉強が苦手な生徒でも英語を話したい」、「英語で社会に貢献したい」と思える生徒への英語教育ロールモデルができつつあり、生徒の英語力向上にも一定の効果が表れたことを実感した。

以下参加生徒の声（一部抜粋）

・英語のリスニング力が向上し、話すときに話したいことがすぐ出てくるようになった。
・このプロジェクトに入るまで英語が本当に嫌いだった。その苦手意識が克服することができた。
・外国人と一緒に笑って会話ができることが一番成長を感じている
・HIS の生徒は自分の考えを持っていて尊敬しました。自分もそうなりたいと思った。
・挑戦をする力が一番身についたと思う。

今後の課題として、数値での効果測定とロールモデルの横展開である。本プログラム参加の生徒には実際に英語力が向上したかの定量的な効果検証が必要だと考える。（１月に参加生徒は実用英語検定を受験）また、本プログラムには 38 名の生徒が参加をしているが、今後はこのロールモデルをどのようにして学校全体や静岡県全体へと波及させていくかが今後の検討事項である。

報告　グローバルハイスクール

夏季の効果的・効率的なエネルギーの利用についての国際比較

静岡聖光学院中学校・高等学校

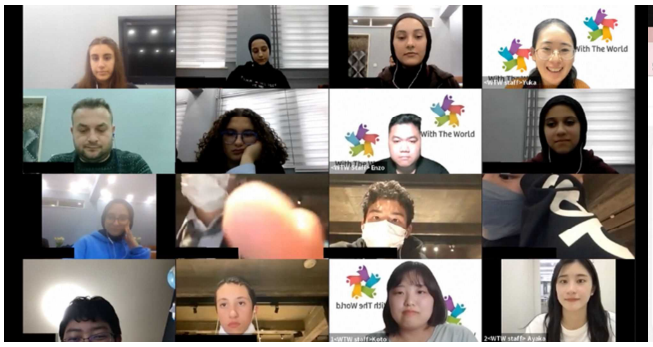
1　グローバル教育の概要

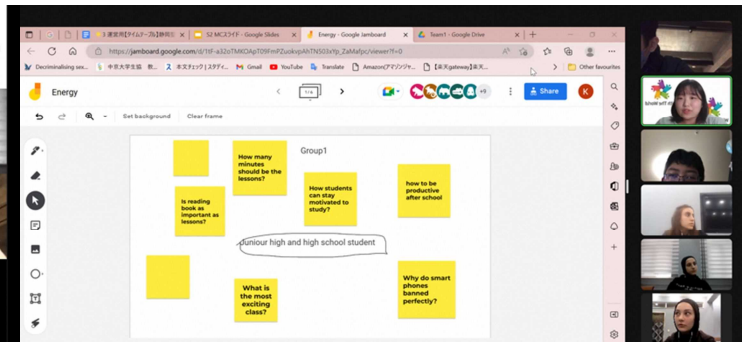
本校では Global Immersion プログラムを設立し、良質なインプットとアウトプットでゼロベースからの実践的な英語習得を実現する英語教育と、生徒の自主性を促す個性的で多種多様な国際交流を実施しています。言語と文化を超えて世界中の人たちと協働・共創する経験は、自分と世界の触れ合う範囲を広げてグローバルな視野を広げます。海外大学進学のサポート体制も整え、世界が抱える課題解決に挑戦し貢献することを目指します。

2　実施計画と具体的内容

地球温暖化にストップをかけるために効果的・効率的なエネルギーの使用が求められます。エアコンの使用(温度設定)と電力・気候変動とのかかわりについて調査し、社会に広く発信するため、これからの社会の担い手である生徒が主体になって問題提起から議論、解決策の提案と実行ができる国際交流プロジェクトを計画しました。将来的にはグレタさんのように社会運動をけん引できるような人材育成を目指します。

・中部電力株式会社よりエアコンの温度設定と環境に与える影響について話を伺う。
・海外の学校と交流をし、エアコンの使用・エネルギー使用への関心の度合いについて調査する。
・調査内容について発表する。
・エネルギー問題の理解と主体的な問題解決行動のためにオンラインや ICT 機器を活用しより対話的、体験的学習形態を取り入れて実施する。





3　各年度における取組

1年目　国内・オーストラリア・インドネシア・ブルネイのエネルギー使用等について理解をする。エネルギー使用が環境にどのように影響を与えるか理解をする。

2年目　トルコ・フィリピンの海外生とオンラインで交流会を全 12 回実施。世界・地域レベルでエネルギー問題解決のために行われている取り組みを理解し、自主的に問題を発見、解決策を考えて実行できるようにする。

４　研究の成果と課題

全 12 回にわたってエネルギー問題について議論、対話型学習を繰り返すことによって、単に調べ学習をすることでは気づくことができないことや、議論や思考レベルがとても深いものになった。参加した生徒たちは自主的に問題が何かを考え、解決策を考えることができ、海外校の生徒と対話することで地域差による問題の差異や取り組み方の違いについて考慮しながら、まさにグローバルな視野を広く持つことができた。エアコンの温度設定には、想像以上に地域差による考え方の違いがあることを生徒たちは痛感した。地理的条件や社会、慣習の違いが問題を複雑にしていることを知る機会になった。しかし、その中でも共有して取り組めることを探す必要があり、各グループではそのための解決策を考え提案することができた。文化背景の異なるメンバーとの協働学習を通して、異文化理解・リーダーシップやフォロワーシップを養う機会となった。

課題は、コロナ禍で海外訪問を含めたフィールドワークができなかったことである。文章や数字ではわからない実感として、地域事情を考えた議論ができなかった。また、解決策のアクションプランの実行が難しいことが多く、生徒達の行動を制限せざるをえなかった。

〈２年目　活動内容の概要〉

1. 世界のエネルギー問題について基礎的知識、背景を確認する。エネルギー問題の理解を深める
2. グループ分けとチームビルディング。円滑に議論を進めるためのアイスブレイク
3. 日本、トルコ、フィリピンの地理的・気候的条件や要素を知る
4. 静岡ガス　グローバル・エネルギー本部電力・環境事業部の方より日本のエネルギー事情について再度講演・インタビュー(日本人生徒のみ参加)
5. チームごとに議論するテーマ決め、リサーチ内容の計画書作成
6. リサーチ内容の共有とディスカッション、内容のブラッシュアップ
7. リサーチ内容をもとに問題解決のアクションプランのアイデア出しとアクションプラン報告に向けた打ち合わせ
8. アクションプランの報告と改善
9. アクションプランの発表の打ち合わせ
10. アクションプランの発表準備
11. アクションプランの発表
12. アクション継続の進捗の共有

報告　海外インターンシップ　　JTB 株式会社　静岡支店

1　日　　時　　令和５年３月 22 日（水）　12：55～16：00

2　研修対象国　　オーストラリア、台湾

3　会　　場　　（オンライン参加のため在籍校、自宅等から参加）

4　参 加 者 数　　生徒 40 人、引率教員１人

5　内　　容

(1) JTB 静岡支店より会社概要等説明
(2) オンラインインターンシップ（JTB オーストラリア支店）
(3) オンラインインターンシップ（JTB 台湾支店）

6　参加生徒の声

- 海外の雰囲気や、働く上で必要になる能力などが的確に分かり、実際に海外にいる方が答えているので、説得力がありました。
- 国外で働くということをあまり考えていなかったのですが、そのような進路も考えようと今回の研修を通して思いました。
- 日本の企業が全世界に支店を展開している実態を直に感じることができました。
- オーストラリアの社内を見せていただき、オンライン会議がたくさん行われていたり、在宅勤務の方がいることを知ることができたり、色々な国籍の方々が働いていたりしていることをみて、海外で働きたいと強く思いました。

報告　海外インターンシップ　　ヤマハ発動機株式会社　生産本部

1　日　　時　　令和５年３月 23 日（木）　９：30～16：00

2　研修対象国　　インドネシア

3　会　　場　　ヤマハ発動機株式会社（磐田市新貝 2500）

4　参 加 者 数　　生徒 56 人（参集 49 人、オンライン７人）、引率教員５人

5　内　　容

(1) オンラインインターンシップ（YIMM）
(2) 工場等見学（参集参加者のみ）
(3) 社員との交流会（参集参加者のみ）

6　参加生徒の声

- 今回のインターンシップで YAMAHA 発動機の方々の話をお聞きした結果、私も将来、海外の市場を相手に仕事がしたいと思うことができました。日本で過ごしていたら考えつかないような新しい発見、出会い、文化の違いなど様々な刺激を受けられることが楽しそうで魅力的だと感じました。
- 今日のインターンシップを通して、自分の考え方や価値観を、とても良い方向へアップデートすることが出来ました。実際に働いている方の熱量を直に感じることができ、こんな企業に努めたいと自分の将来の方向性を固めることが出来ました。
- インドネシアの風土に会社の理念を合わせていく努力を見て、感動しました。

報告　海外インターンシップ　　静岡銀行本部　国際営業部

1　日　　時　　令和５年３月 23 日（木）　13：00～16：00

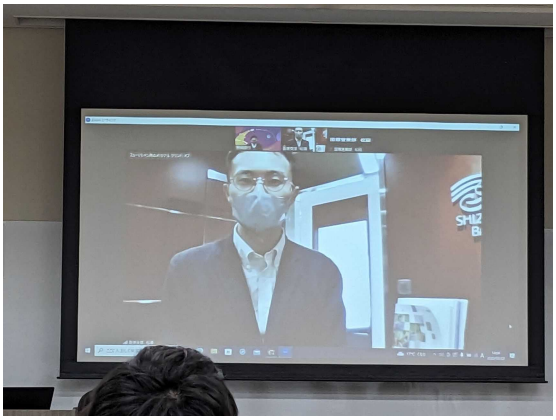
2　研修対象国　　香港

3　会　　場　　静岡銀行本部（静岡市清水区草薙北 2-1）

4　参 加 者 数　　生徒 40 人、引率教員４人

5　内　　容

(1) 静岡銀行の国際業務について（プレゼンテーション）
(2) オンラインインターンシップ（静岡銀行香港支店）
(3) 海外と関わりのある行員との交流（グループワーク）



6　参加生徒の声

- 実際に海外の支店に勤務している方から、現地の状況など詳しく教えていただくことができ、リアルなお話を聞けて、知識を深めることができました。
- 今まで漠然としか考えていなかった海外で働くという夢が、職員さんたちの話を聞いたおかげでより現実的な目標となりました。
- 静岡銀行がこんなにも海外に支店を持っていて、海外と連携しながらビジネスしていることを知りました。これから更にグローバル化が進んでいくと思うので、今回のこの体験は本当に良かったと思っています。
- 世界をより身近に感じることができました。

支援企業・団体一覧（2016 年 4 月～2023 年 3 月）

公益財団法人 はごろも教育研究奨励会

明産株式会社

一般社団法人 静岡県信用金庫協会

スルガ銀行

静岡県遊技業協同組合

国際ソロプチミスト駿河

Dream with you. 静岡銀行

清水埠頭株式会社

清水銀行

Z-KAI Group

Kobayashi 富士から世界へ 小林製作所

NTT西日本

田子の浦埠頭株式会社

公益財団法人 日本教育公務員弘済会 静岡支部

Shizuoka Information Prosessing Center 株式会社静岡情報処理センター

Jatco

清水コンテナターミナル株式会社

静岡新聞 SBS

東海道シグマ

net one

Shizu tetsu 街にいろどりを。人にときめきを。

沼津埠頭株式会社

クロロファイル 日興製薬株式会社

富士トラック株式会社

有限会社 メディカルアイカイ

百年住宅

pure natural APPLE HOUSE

遠鉄システムサービス株式会社

浜松光電株式会社

浜松バス株式会社

松葉倉庫株式会社

近畿日本ツーリスト

静岡県高等学校長協会／静岡県高等学校等副校長・教頭会／静岡県公立高等学校事務職員協会／学校関係団体（同窓会、後援会等）／ふじのくに応援寄附者（個人支援者）

令和４年度
「ふじのくにグローバル人材育成事業」
成果報告書

令和５年７月発行
静岡県教育委員会　教育政策課
〒420-8601
静岡県静岡市葵区追手町９番６号

Sustainable Development Goals（SDGs）とは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す、国際社会全体の開発目標です。経済・社会・環境をめぐる課題について、17の目標と169のターゲットが示されています。
県教育委員会の取組は、主に目標４「すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」に該当しています。